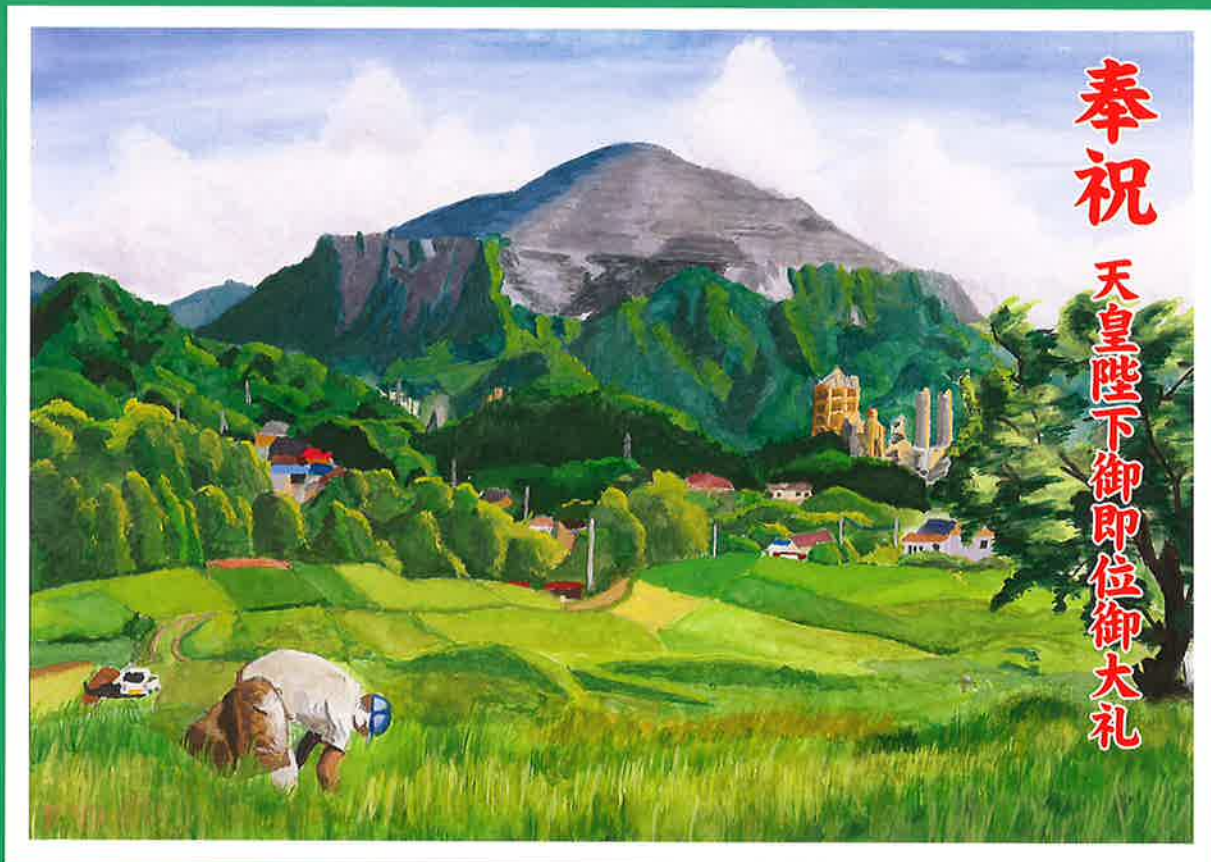


柞乃杜

秩父神社社報
柞乃杜(ははそのもり)

第 59 号

令和元年7月20日
(川瀬祭)



奉祝

天皇陛下御即位御大礼

ふるさとの

山に向ひて

言ふことなし

ふるさとの

山は

ありがたきかな

啄木

「武甲山」を恋ふる歌

山里 やまびと 知々夫平の南面に屹立する武甲の嶺 ちちぶだいら

奥武蔵随一の名峰と 千古の昔から称ふる神奈備 ずいいち た かむなび

その神奈備の山懐に 知々夫国魂の大神が宿り給ふ やまふところ くにたま

たたなづくその山裾に 籠もり国の知々夫の里 やますそ こ

その里びとは 春の山入りに大神を棚田に迎へ たなだ

秋の野ずえに大神を歡び送る

時を経て その山肌を生活に喰らひつつ たつき

今さらに その山並みを恋ふ 里びとのわれ

解説 秩父神社 (57)

杉山 正司

◆ 秩父神社を巡る

三口の刀剣と武威武士(一)

(一) 三方西と宍粟鉄(千種鉄)

播磨国三方西の新補地頭となった丹党中村氏の名跡は、同族の丹党大河原氏が継いだという(『一宮町史』)。

三方西とされる地域は、現在の兵庫県宍粟市波賀町付近とみられる。宍粟市は、平成十七年(二〇〇五)に一宮町・波賀町・千種町・山崎町が合併してできた市である。

宍粟市の旧一宮町には、播磨国一



播磨国一宮 伊和神社

宮である伊和神社が鎮座する。同社は、『播磨国風土記』に伊和大神と葦原志許乎命(ともに大己貴命の別称で、同神とされる)を御祭神とする記載され、『延喜式神明帳』にも「伊和坐大名持魂神社」(伊和に鎮座する大己貴神の社)と記されている式内社(名神大社)でもある。

さらに旧千種町は、宍粟鉄、または千種鉄と呼ばれる良質な砂鉄が産出することで有名な地である。

伝承では、千種岩野辺地区には、「金屋子神降臨の地」が建碑される。これは、製鉄や鉱山開発の神である金山彦命と金山姫命を祀る島根県安来市広瀬町鎮座の金屋子神社に、次の内容を記す祭文があるという。播磨国志相郡若鍋の桂の木に高天原より一柱の神天降り座し、驚いた民が神に尋ねると、吾は金屋子の神である。この地で鍋を作り、シラサギに乗って飛び立ったといひ、千種岩鍋の地の由来とされる。

奈良時代に編纂された『播磨国風土記』には、「敦草の村草を敷きて神の座と為しき。故に敦草(宍粟)という。この村に山あり南の方にさること十里ばかりに沢あり、(中略)鉄を生ず」(※(一)内は筆者)と、当地で鉄を産出することが記載されている。実際に製鉄をしたた跡が、天兒屋鉄山跡(兵庫県指定史跡)として残されており、古代から鉄が産出され、製鉄技術が進んでいたことが窺われる。このような良質な鉄が産出される地

に移った大河原氏は、当然ながら武士の魂ともいわれる刀剣の作刀と氏神への奉納へと意識がつながったことであろう。

(二) 備前長船派と景光

鎌倉初期に僧慈円は、『愚管抄』に、保元・平治の乱以降「日本国の乱逆と云ふことはをこりて後、むさ(武者)の世になりける也」と評した。まさに時代は武家の世となり、ともに武器・武具が大きな発展をみたことは、歴史からも明らかである。

武士たちは、合戦に出て戦うため、また己を守るために刀剣を求めた。需要があれば供給が必要である。この時代には、山城国(京都府)、大和国(奈良県)、備前国(岡山県)、美濃国(岐阜県)、相模国(神奈川県)の五ヶ所に日本刀の主要産地があり、それぞれ特徴のある日本刀が作られ、それらを総称して五ヶ伝という。このうち備前国は、播磨国に隣接しており、五ヶ伝の中でも最も多くの著名な刀工と優秀な刀剣を生み(備前伝、備前刀は特に武士たちから珍重された)。

備前刀は、他の四地域と比べても政治の中心から最も離れており時流に左右されず、また作刀に必要な中国山地から産出される砂鉄・木炭、吉井川の豊富な水などの資源に恵まれ、最多の刀工と最も長期にわたり繁栄した。備前伝の特徴は、よく詰んだ板目肌、刃中に白く霞んだように見える匂(におい)刃文は、丁子の蕾が並んだ華やかな丁子

刃が主体で、地に映りが現れるのが特徴である。

備前伝の流派は、古備前派、長船派、畠田派、福岡一文字派、片山文字一派、吉岡一文字派など、多くの流派が存在している。なかでも長船派は、戦国末まで活動している一大流派である。

長船派は、現在の岡山県瀬戸内市長船町長船を本拠とする鎌倉時代中期から活動が確認できる流派である。光忠を祖とし、長光、景光、兼光と戦国時代まで続く備前伝の盟主といえる。

三代目となる景光は、本テーマの刀工である。景光の作刀時期は、年紀から鎌倉後期を中心にみられる。景光は太刀とともに短刀の作例も多いのが特徴で、薙刀や小太刀などもみられる。

景光は、刃文では、直刃主体に小湾れや小丁子なども焼くが、最も特徴的なのは、「片落ち互の目」と呼ばれる連続した互の目の肩の一方が落とされたように下がる刃文を焼く。さらに「乱れ映り」といひ、刃文の映が、地に澄んで乱れた刃文のように映って見える刃文を焼くことが多く、長船派の中でも、景光の作刀は最も地金が美しいといわれる所以である。次回紹介する秩父神社ゆかりの刀剣は、景光の特徴を最もよく表現した逸品である。

大河原氏の新領地、そこで産出する良質な千種鉄、隣国に当代一流の刀工の存在という幸運が重なって名刀が生まれ、故郷秩父神社に奉納されたのである。(埼玉県立歴史と民俗の博物館 主任専門員兼学芸員)

「社頭から令和の御代に臨む」^{のそ}(後編)

宮司 蘭 田 稔

本年五月一日をもって「令和」というまことに美しい御代替わりを迎え、国民等しく新帝の御即位を言祝ぐなかで、当地も清冽な川瀬の神輿洗い神事を執行する夏祭を迎えました。

本稿では、昨年十二月の例祭時発行の本誌58号に論説として「社頭から平成の御代を振り返る」の前編を掲載したので、その後編を主題とすべきですが、今は御代の改まりにふさわしく「令和」の御代に臨む趣きで、平成時代の後半をも振り返ることにいたします。

○

「振り返れば未来」とあるように、時代の新生は過去との断絶ではなく生命の改まりに等しい本来の革命と心得るべきですが、本誌「柞乃杜」の論説欄が平成の三十年を辿ってきた内容を改めて看ますと、その目ぼしい表題だけを挙げてみても令和の新時代に引き継ぐべき課題ばかりです。たとえば平成元年の創刊号では「明日の御社運に想う」に始まり、3号は「平成は文化の時代」4号が「昭和の継承と平成への発展」と5号が「秩父のマチ造りーわが家郷社会論」6号が「平成の宮造りー境内整備の意義」7号が「鎮守の森ー家郷の神道的造形」10号が「千年の森に学ぶ」11号が「秩父の風土と夜祭り」14号が「平成殿上棟祭に仕えて」18号が「いまマチが危ないー家郷社会の崩壊」19号が「町ぐるみ回遊型の祭礼博物館づくりを」20号が「秩父未来会議結成に向けて」



「近影」

22号が「武甲山を見据えるーふるさと再生の原点」24号が「秩父まほろば塾設立に向けて」25号が「鎮守の森を現代に問うー社叢学会の発足に臨んで」27号が「日本の文化に向き合うことー自分探しの道」32号が「愛知万博の出展始末記」34号が「神仏という宗教文化ーいのち畏敬の伝統」38号が「破壊から創造へー武甲山の修景を考える」39号が「柞祖霊社の御創建由来」40号が「鎮守の森を世界へ：森と水ーいのちの神々」41号が「武甲山再生フォーラム開催に向けて」43号が「海と息子たちとー東日本大震災に直面して」44号が「緊急提言：町ぐるみ回遊型の祭礼博物館の実現を」46号が「祭の復活は復興の証し」48号が「御創建二千年という意義」53号が「神社の公共性を考える」54号が「ユネスコ登録から祭礼博物館設立へ」。

こうしてざっと辿ってみても、要は当社の命運を時代の激動の最中に切り拓く模索のなかで、豊かな自然の風光と伝来の生活文化とを活かした祖孫一体の魅力あふれるコミュニティを再構築するための提言を重ねてきたつもりでした。

○

かくして平成から令和へと改めて人心を一新するという、いかにも日本文化に根ざした時代の再出発にふさわしく、当面は、三点に絞って社頭に関わる活動をご報告しておきます。

(一) 御鎮座二千年奉祝記念事業

第十代崇神天皇十一年と目される起源伝承から数えて創建二千年を迎えた平成二十六年に式年大祭を斎行し、その後よりさまざまな奉祝記念事業を実行するなかで、先に夜祭お旅所斎場の本格的整備を完了し、本年度より待望の御社殿改修事業を令和五年度に掛けて取り進むこととなります。幸いに構造面の補修はごく僅かで主に装飾面の貴重な彫刻

類の塗り替え作業に重点を置き、その間に大切な祭祀面に支障無きよう万配慮して、完工の暁には秩父総社の面目一新を期待するところです。

(二) 祭りでマチ造り

秩父プロジェクトの推進

今後さらに猛威を増す情報文明のグローバル化と急激な少子高齢化による生活社会の空洞化に晒されて、今や全国の地域社会が例外なくコミュニティの活力を喪失する危機に瀕しているなかで、我が秩父地域に遺された社会資本ともいへば資源は、魅力あふれる自然の風土と一体の祭礼文化ではないか。先年地元が実つて秩父夜祭がユネスコの世界無形文化遺産に認められたことも、文明のグローバル化に負けぬ郷土文化の国際化の成果にはかならない。海外にも誇る祭礼文化こそが令和の新時代にも秩父地域のコミュニティ結束と活性化を確保で



「武甲山」

きる社会資本なのです。

(三) 武甲山未来フォーラムの結成

今年二月二十四日に環境省『つなげよう支えよう森里川海』プロジェクト主催の秩父ふるさと絵本発表会に併せてその第二部に「武甲山未来フォーラム」を開催し、再度武甲山の当面する課題を提起することにしました。基調講演には哲学者の内山節氏を招き、討議者には資源環境ジャーナリストの谷口正次氏にもお願いして採掘企業の代表や地元関係者の発言をも頂き、続く六月十五日にはその報告会を開いて百人ほどの熱心な参加者の話し合いを催したところです。その詳細は、ウェブサイトで立ち上げた「武甲山未来フォーラム」を参照願いますが、近く組織化して本格的な活動に入りますので、この課題に心を寄せる皆さんのご参加を期待しております。



【表紙絵解説】

この度の表紙絵画は、平成三十年度第四十八回武甲山図画展において、埼玉県知事賞を受賞した影森小学校六年、清水爽花さんの作品を掲載させて頂きました。

東京から一番近い棚田として有名な寺坂の棚田は、武甲山展でも毎年多くの作品が生まれておりますが、今回の作品も非常に優れた作品で、特に農作業をする人物やトラックを入れて生活感も出しています。武甲山に対しては、「家族で三年生の時に登り、快晴の下、とても綺麗な景色を見ることが出来ました」と答えて頂きました。

将来はパティシエかファッションデザイナーになりたいという大き

な夢に向かって毎日頑張っている清水さん。今後益々のご活躍を期待しております。

【表紙歌解説】

ふるさとの山に向ひて 言ふことなし

ふるさとの山は ありがたきかな

石川啄木

前号(58号)の表紙歌に続き、明治期の歌人(一八八六年〜一九二二年)本名、石川 一)の代表的歌集『一握の砂』第二章の「煙」に所収の一首。啄木にとっての「ふるさとの山」は岩手山か姫神山だか、私たちにとって武甲山に対する想いに通じる名歌として紹介する。

秩父宮会報告

◆御大典記念

「秩父郡の歌」CD制作 協賛金募財について

皆さんは「秩父郡の歌」をご存知でしょうか。かつて秩父郡全域で広く若男女に愛唱された歌ですが、知っている方は随分と少なくなつてしまいました。

今から九十一年前の昭和三年、昭和天皇陛下の御即位御大典、さらには秩父宮兩殿下のご成婚を祝う奉祝歌として、私どもの先人達は「秩父郡の歌」を制作致しました。作詞は佐佐木信綱、作曲は信時潔と当代一流の芸術家の手による作品であり、武甲山をはじめとする秩父山塊と荒川の清流、秩父銘仙や林業など当時の地場産業を歌詞に織り込み、合せて秩父宮殿下を顕彰する内容となっております。

この五月一日をもって令和改元が相成り、第一二六代の天皇陛下が踐祚あそばされた記念すべき年にあたり、かつて郷土秩父を称える歌として愛唱された「秩父郡の歌」をCD化するのを、令和改元の記念事業として計画致しました。

現存する原譜より楽譜を調べ、歌手・演奏者は秩父在住若しくは秩父出身の芸術家の皆様に依頼するほか、制作された当時の歴史・背景など記録的な作業も合せて行う予定です。制作費用は総額で百万円を見込み、

一口五千円の特別協賛金を二百口集めてこれに充てる計画です。CDは非売品として千枚を制作し、協賛金一口(五千円)に対してCD一枚を返礼品として提供させて頂くほか、秩父郡内各市町村また管内公共機関等へも無償提供し、学校教育をはじめ様々な市民活動の機会にも活用戴けるよう努めて参ります。

現在、目標額の凡そ五割ほどが集まりましたが、会員以外でも趣旨に賛同戴けたく、皆様方のご協力をお願い致します。秩父神社内の秩父宮会事務局(新井君美)までお気軽にお申し出下さい。多くの皆様のご協力をお待ち申し上げております。

秩父郡の歌

- 一、見よ三峰と両神と
武甲の峰の雄々しさを
見よ荒川の清き水
都に注ぐ勢いを
秩父秩父我が秩父
- 二、和銅を奉げし昔より
人の心の健やかに
美山を埋む杉檜
里に織り成す秩父絹
秩父秩父我が秩父
- 三、いとも長き御子の宮
栄えある御名に負いませ
貴き登りの光
世に輝かせいざ共に
秩父秩父我が秩父

氏子青年会報告

氏子青年会30周年事業にむけて

副会長 大島隆芳

秩父神社氏子青年会は平成二年四月十五日に発足し、本年度もちまして三十周年を迎えます。本年度会長、山喜仁会長から私、大島隆芳が実行委員長の大役をお預かりいたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年のうちから三十周年に向け事業委員会を新たに立ち上げ、これまで意見交換をかわしながら日程を令和二年二月二十九日に決め、只今、事業内容を検討しているところでです。

周年事業を行う大きな目的として三つ挙げられると思います。一つはこれまでの足跡を見つめ、原点を忘れない事。二つ目はこれまで会の発展に寄与された先輩方への感謝。そして三つ目に、これからの氏子青年会の発展、成長の決意を表し、更なる結束を誓うこと。この大きな節目を迎え、しっかりと準備をし、周年事業を成功させたいと思います。

組織編制ですが、氏子青年会の中から五役を中心に各部会を編成しました。以下、担当部会とその

部会長です。

祝賀会部会(内田光輝)・記念事業部会(澤山英男)・記念紙部会(中村文治)・記念品部会(関根大介)・式典総務部会(手島孝)

各部会で準備を進めるにあたり、神社様、協力会の皆様、そして会員の皆様にお願ひ事、ご協力を仰ぐと思ひますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

三十周年記念を晴れやかに迎えられるよう、当日、多くの皆さまのご参加をお願ひいたしまして、ご挨拶に代えさせて頂きます。



梟だより



◆ 氏子青年会武甲山登拝

六月二日(日) 氏子青年会「親子で登る武甲山登拝」が開催されました。当会恒例行事で、山寄会長を始め、市内ソフトボールチームの子供達を含め三十八名の参加を頂きました。午前七時半に秩父神社を参拝の後、横瀬町生川の登山口広場から約二時間かけ、ゆつくり登頂しました。山頂の御嶽神社にお参りをして親子の絆も深まりました。思い出の残る登山となりました。来年も大勢のご参加をお待ちしております。



◆ 園田宮司本多静六賞受賞

埼玉県では毎年、日本初の林学博士である本多静六氏の功績を称え、森林に関する学術研究や実践活動に貢献した個人又は団体を表彰しています。今回の第十二回目において、園田宮司が受賞し、七月八日知事公館にて授賞式が行われました。

受賞理由は鎮守の森の研究を推進、鎮守の森や里山の保全活動の実践、鎮守の森を核とした地域活性化への貢献の三点です。常日頃より、ご協力頂いておりますご関係の皆様に対し、紙面にて御礼申し上げます。



◆ 森玄黄斎作 木刀奉納

此度、元酒亭ひさまつ女将中村薫様より森玄黄斎作の木刀が奉納されました。



こちらは御主人中村光男氏が祖父より引き継いだ遺品で宮司が受納致しました。材質は枇杷材、刀身には十二支動物ノ彫刻が施され、刀背の銘文には文久二壬戌歳秋七月既望應山中氏之需 玄黄齋(花押)とあり、一八六二年作の貴重な資料として大切に収蔵させて頂きます。

◆ 秩父神社妙見講

- 自 平成三十一年 二月
- 至 令和 元年 六月
- 二月十日 坂戸妙見講
- 小川直志講元外二十二名
- 四月十四日 宮側講
- 鈴木建志講元外五十六名
- 四月二十日 皆野妙見講
- 宮前喜久江講元外八十三名
- 五月 五日 原谷講
- 中西貞夫講元外四百八十一名
- 五月十二日 近戸講
- 柴岡祐雄講元外 百六名
- 五月二十六日 中宮地講
- 齋藤眞一講元外百七十六名
- 六月二日 熊木講
- 辻 正講元外百五十三名
- 六月十五日 本町講
- 稲葉富司講元外百一名

六月十六日 下宮地講

若林久義講元外六十八名

六月十六日 別所講

富田悦之講元外七十七名

六月二十三日 下郷講

浅見佳久講元外三百五十八名

六月二十三日 幸手妙見講

高浜彰男講元外四十八名

六月二十九日 日野田妙見講

竹村庄三郎講元外百六十六名

本年より 中宮地講 齋藤眞一様が新に講元に就任されました。どうぞ宜しくお願い致します。

◆ 柞乃杜神前結婚式報告

- 大里郡寄居町 本田 恭隆・実沙様
 - 神奈川県相模原市 西川 勇斗・桃香様
 - 上尾市平方 関根 剛・香織様
 - 秩父市上宮地町 大島 功嗣・あゆみ様
 - 秩父市品沢 大島 寛・梢様
 - 東京都荒川区 嶋野 貴輝・温子様
 - 秩父市大野原 田口 徹・佐智子様
 - 鴻巣市天神 武村 俊泰・幸恵様
 - 秩父市下吉田 塩島たすく・希美様
- 未永く幸せなご家庭をお築き戴きますようお祈り致します。

◆ 職員辞令

権禰宜 大澤 孝 神職身分二級上昇級 (三月一日付)

主 典 宮田和裕 権禰宜を命ず

巫女見習 原田悠乃 巫女を命ず (四月一日付)

◆今上陛下

武甲山にご登拝の思い出

大総代 富田 孝

四十年前の事です。今上陛下(当時徳仁親王殿下)が埼玉県を通じ御学友と随行の人を伴い武甲山においでになるとの連絡がありました。

私はその時横瀬村長を勤めておりましたので案内をさせていただきました。大変光栄に思いました。

武甲山の表参道から山頂をめざす山行きで二月でしたが当日はお日和も良く秩父連山をはじめ口ケーションも良く道中小鳥の声で



鳥の名前を聞かれたり、足元の植物の名前など話しながら登りました。陛下におかれましては周辺の人々に気配りをされ足も強く、和やかに言葉をかけて頂き素晴らしい一日でした。

陛下は昭和五十三年の春休みの時でした。私にとっては生涯忘れ得ぬ日となりました。

帰路武甲山の麓の守屋宅で関係者一同と会食を共にされ秩父地方のお話をしながら秩父のおそばを召し上がっていただきました。

写真は当日の山頂での記念のショットです。

◆御社殿保存修理計画進捗状況

前回の報告の通り昨年一年間をかけて、設計図書・工事見積書の作成が設計監理者である株式会社工学研究所により行われ、三月末日に完成を致しました。此の事を受けて、去る四月十六日に修理委員会が行われました。先ず保存修理期間については、五年間をかけて行い、最終年度は令和五年十二月に完成予定である事。次に今回の工事は、漆彩色の塗り直し工事である事、施工業者の選定については、公共工事に基づいた入札形式で漆彩色業者にて行なう事。工事期間の足場については、御本殿の東面・西面・正面の三回に分けて設置し、御遷座は行わず、仮設期間の神事・ご祈願・ご参拝者の対応については慎重を期する事の四点が

決定いたしました。今年度の工事は七月十九・二十日の川瀬祭り後より行う予定で、東面には工事用足場が掛けられる予定となっております。ご参拝の皆様にはご不便をおかけすることが有るかと思存しますが、何卒ご理解ご協力をお願い申し上げます。

◆ちちぶインフィオラータ二〇一九開催

此度、首都近郊で開催されている「東京インフィオラータ」の一つとして五月一日〜六日の間、秩父で初めて開催されました。

インフィオラータとは、イタリア語で『花をまく』という意味の、四〇〇年以上続くイベントです。市民が教会までの道のりを花や種子等で宗教画を描くもので、イタリアやスペインを中心に世界各国で現在も盛大に行われています。

花の短い命で成り立つアートは『エフェメラルアート』『儚い命のアート』とも呼ばれ、毎年その瞬間の美しさを求め会場には多くの観光客が訪れます。

会場となった境内に色鮮やかな花びらとカラーサンドで描かれた花絵の「北辰の鼻」が大勢の参拝者を魅了しました。



編集後記

■時代は祝意の内に令和の御代を迎え、ここに社報第五九号川瀬祭り号をお届けいたします。

■既にご高承の通り、光格天皇より実に二〇〇年ぶりとなる御譲位による御代替わりに伴い、全国の神社では臨時の祭典を執行致します。

■当社においても四月十日(水)天皇皇后両陛下御結婚満六十年奉祝祭、四月二十九日(月)「御譲位御安泰に関する祭祀」五月一日(水)「踐祚改元奉告祭」を執行致しました。

■つきましては、今後祭典が執行されます各日において、各ご家庭におかれましては国旗を掲揚のうえ祝意をお示し戴きたく何卒宜しくお願い申し上げます。

十月二十二日(火)「即位礼当日神社に於いて行う祭祀」十一月十四日(水)「大嘗祭当日神社に於いて行う祭祀」

※ 本報の用紙は再生マット紙を使用しています。



令和元年(二〇一九)七月二〇日
編集 秩父神社社務所
〒361-0004 埼玉県秩父市番場町一三
TEL (0494) 221-0262
FAX (0494) 241-5596
印刷所 有限会社 坂文社印刷所
〒361-0004 秩父市東町二七七八